

○ 環境影響評価書について

1. 準備書への意見

市長より、本事業は工事着手まで数年の期間があり、さらに工事着手から埋立終了まで40年以上の長期に及ぶ事業特性から、6項目（騒音、動物、植物、生態系、景観、事後調査及び環境保全措置の検討について）に対して配慮するよう意見がありました。

道知事からは意見がありませんでした。

2. 準備書から評価書への主な変更点

(1) 騒音

埋立地供用時の中沼町66番地[※]における騒音について、影響を予測、評価し、環境保全措置を検討しました。予測要因によっては環境保全目標値を満足しない結果となったので、増加値を1dBまでとする環境保全措置を検討しました。

（※市街化調整区域につき類型指定はないが、周辺状況から「C」を参考としている。その場合、現状でも基準を超過している）

表-1 騒音予測評価（一部抜粋）

要因	予測項目	予測時期	予測条件	予測値(昼間)	評価	保全措置
資材、機械及び建設工事に伴う副産物の運搬に用いる車両の運行	昼間の道路交通騒音レベル(L _{Aeq})	AブロックからDブロックへのプレロード土量移動時	・準備書作成段階に加え、一般交通量の増加を考慮、篠路破砕工場、資源化工場、資源選別工場の搬入車両を考慮(H24実績反映) ・Dプレロード土量搬入車両31台×2が走行	2F 69dB 1F 69dB 増加値 0.43	○	—
廃棄物及び覆土材の運搬に用いる車両の運行	昼間の道路交通騒音レベル(L _{Aeq})	Cブロック供用、Dブロックプレロード土量搬出時	・準備書作成段階に加え、一般交通量の増加を考慮、篠路破砕工場、資源化工場、資源選別工場の搬入車両を考慮(H24実績反映) ・廃棄物運搬車両119台×2が走行(H24実績反映) ・Dプレロード土量搬出車両221台×2が走行	2F 69dB 1F 70dB 増加値 1.15	×	・廃棄物運搬車両の台数規制 …埋立廃棄物運搬車両が65台/日 [※] を超えて通過しないように規制(※H24自己搬入車量台数実績) ・プレロード土量搬入車両の台数規制 …プレロード土量運搬車両が50台/日を超えて通過しないように規制 ・出口の右折禁止 …事業実施区域から道道128号へ出る関係車両の右折を禁止 ⇒増加値 0.49となり保全目標値を達成

予測地点：中沼町66番地(三角点通)
現況：昼間69dB、夜間61dB
保全目標値：現況比増加1dB未満

(2) 動物 鳥類（希少猛禽類）

オオタカ及びチュウヒについて、事業着手前の3年間に、オオタカ及びチュウヒの繁殖状況、オオタカが利用可能な古巣及び営巣可能林の分布状況を再度把握する「現況把握調査」を実施することを記載しました。事業着手後の環境保全措置は、現況把握調査の結果をもとに、より効果的な保全措置を検討することを記載しました。

表-2 猛禽類調査項目

項目	対象種	調査時期
①繁殖状況確認調査	オオタカ チュウヒ	事業開始前の3年間 3回/年 …5月、6月、7月
②古巣分布状況確認調査	オオタカ	事業開始前の3年間 1回/年 …2月～3月
③営巣可能林分布状況確認調査	オオタカ	現況確認調査開始年 1回 …2月～3月

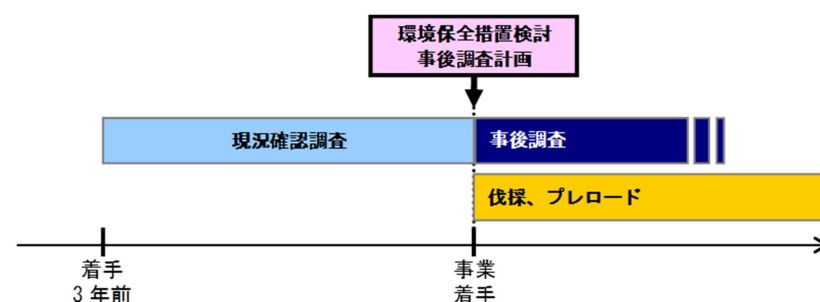


図-1 猛禽類調査工程

(3) 動物 昆虫類

準備書までの既往調査で生息が確認されており、準備書作成年に環境省レッドデータブックに掲載された6種、生息の可能性が高くレッドデータブックに掲載されているコオイムシ、希少性の高いヒザグロナキイナゴの計8種について、予測、評価を行い、事業による影響の可能性のある種については環境保全措置を検討しました（※水生動物類については(4)のとおり）。

ヒザグロナキイナゴについては、生息環境である雑草群落を可能な限り緩衝帯内に残存することを記載しました。

表-3 昆虫類予測評価

種名	予測結果		保全対象
	造成等の施工	最終処分場の存在	
クビボソコガシラミズムシ [※]	A	A	○
キベリクロヒメゲンゴロウ [※]	A	A	○
キベリマメゲンゴロウ [※]	A	A	○
ガムシ [※]	A	A	○
ハイイロボクトウ	B	B	
スゲドクガ	C	C	
コオイムシ	C	C	
ヒザグロナキイナゴ	A	A	○

第4次レッドリストによる追加
現存の可能性高い・・・道東に生息・・・

A: 影響を及ぼす可能性がある B: 影響は極めて小さい C: 影響はない

(4) 動物 水生動物（魚類・昆虫類・底生動物）

事業着手の3年前に代償池を造成し、環境整備後に対象種の仮移植、モニタリング調査を実施し、その結果を基に、事業着手直前に本移植を行うことを記載しました。

表-4 水生動物対象種

魚類	エゾホトケドジョウ、イバラトミヨ、エゾトミヨ
昆虫類	アオヤンマ、オオコオイムシ、クビボソコガシラミズムシ、キベリクロヒメゲンゴロウ、キベリマメゲンゴロウ、エゾコガムシ、ガムシ、ヘイケボタル
底生動物	マルタニシ

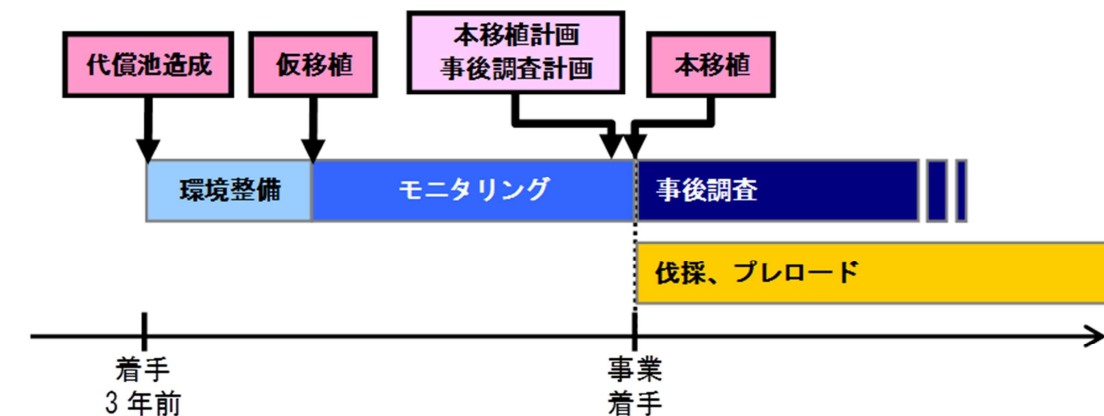


図-2 水生動物調査工程

(5) 植物

事業着手の3年前に代償池を造成し、対象種の仮移植、モニタリング調査を実施し、その結果を基に、事業着手直前に本移植を行うことを記載しました。

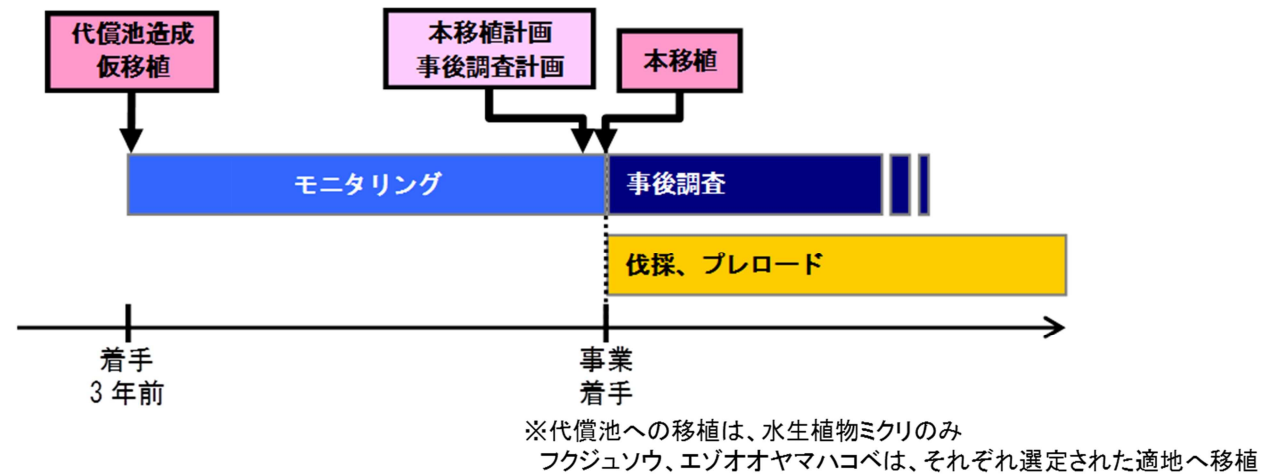


図-6 植物調査工程

(6) 生態系

乾性草地の典型性の昆虫類としてトノサマバッタとモンキチョウを、乾性草地、湿性草地及び水域の典型性の昆虫としてルリイトトンボを抽出し、各種について予測、評価し、環境保全措置を検討しました。

表-5 生態系予測評価

	対象名	予測結果		保全対象	環境保全措置
		造成等の施工	最終処分場の存在		
上位性	オオタカ	A	A	○	現況把握調査を実施し、その結果をもとに、より効果的な保全措置を検討する。
	チュウヒ	A	A	○	
典型性	エゾヤチネズミ	B	B		事業着手の3年前に代償池を造成し、環境整備後に仮移植、モニタリング調査を実施。その結果をもとに、事業着手直前に本移植を行う。
	カワラヒワ	B	B		
	エゾアカガエル	A	A	○	
	トノサマバッタ	B	B		
	モンキチョウ	B	B		
	ルリイトトンボ	A	A	○	
特殊性	草原性鳥類群集	B	B		生息環境である雑草群落を可能な限り緩衝帯内に残存する。
	エゾホトケドジョウ	A	A	○	
	ゲンゴロウ	C	C		
	ガムシ	A	A	○	
	ヒザグロナキイナゴ	A	A	○	
	カラカネイトトンボ	C	C		

A: 影響を及ぼす可能性がある B: 影響は極めて小さい C: 影響はない

(7) 景観

近景眺望点として、No.10 (道道112号札幌当別線) と、No.11 (道道128号札幌北広島環状線) を追加し、各地点について予測、評価し、環境保全措置 (自然材の育成を考慮し適切な時期に植栽) を検討しました。

表-6 景観予測結果

眺望点	埋立地の視認の可否	予測結果
No.10 道道112号 札幌当別線	可	最終処分場の存在による眺望景観への影響は極めて小さいと予測
No.11 道道128号 札幌北広島環状線	不可	最終処分場の存在による眺望景観への影響はないと予測

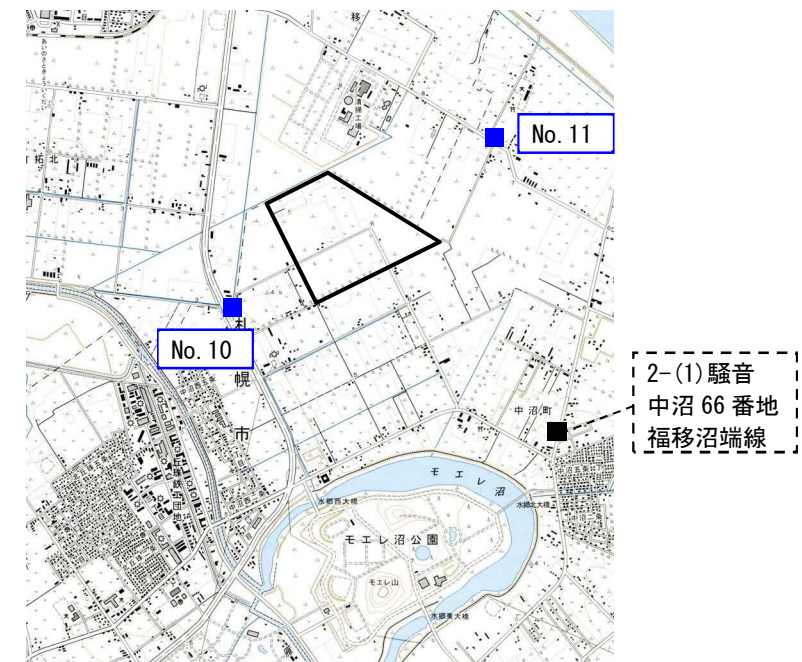


図-7 景観追加調査地点

(8) 事後調査

事後調査の詳細の決定及び環境保全措置の検討においては、事業開始まで期間があることから、事業開始までに専門家等の助言を得ることにより、客観的に決定することとしました。

環境影響が著しいことが明らかとなった場合は、事業者が関係機関と協議し、必要に応じて有識者等の指導、助言を得て追加調査の実施等、適切な措置を講じることとしました。

事後調査結果の公表方法については、環境影響評価法等に準拠した報告書にまとめ、公表します。